
story

marguerite

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

story

【コード】

N9660G

【作者名】

marguerite

【あらすじ】

魔女の恋愛&生活日記ドタバタ恋愛友情青春ストーリーサスペンスもあり

s t o r y

こんにちわ (^| ^) v

私は森山 真帆です

私は小河中学二年四組の学級委員です

学級委員と言っても雑用係みたいなもの・・・

最近わめんどくさくて男子の学級委員にまかしばなし・・・

私は普通の中学生ではないんです実は・・・魔女なんです

現在、魔女はいない・架空の存在と思われていますがみんなかくしてるだけなんです

(魔女とばればあとあとイジメとかめんどくさいし・・・)

そんなこんなで私の生活を教えてあげます

(みんな読んでね (^| ^) v上から目線ですいません)

第一章

ジリジリジリジリ……

も……もう朝……？

こんにちわ私は森山真帆です。

storyで話した通り私は魔女……

つというより……今は魔女見習い

そんなわたしの毎日をみせてあげます。

ピンポン

あっやばっ

「真帆おきろ！遅刻するぞ！」

はいはい。今行くよ、5分待って

「言っと思って20分前にきた……」

……お前ある意味すげえな！

「俺はお前と何年付きあっと思ってんだった？お前のせいで中学入
ってから68回も遅刻してんだぞ。」

「おはよう！真帆・昌暉」

おはー

「おはよう」

この子は幼馴染の東條美沙紀

私の大親友で家から三軒先にすんでる

私たちがわ学校へ向かった

キーンコーンカーンコーン

「きりーっ きよっけー んーい」

「おはようございますー」

私は基本、社会以外の授業は聞き流す主義
なぜ社会を真面目に受けるかと言つと・・・
魔女に関係があるから・・・

第二章 接近

はあゝ

「おーい森山ー」

あっはい

「お前授業聞かないと高校行けないぞ！」

だいじょーぶです。私高校行かないんで！

「だっだとしても真面目に授業受けるーや！」

はーい

この人は私の先生（理科担当・私の担任）

名前は尾園 好

私のクラスは結構悪い子が多いから先生は四月から髪が薄くなってきた（笑）

今の時代なぜ中卒を選ぶかと言うと・・・
決して家がビンボーとかじゃないです

魔女は十六歳から本格的な魔術を学ぶために魔界の学校に行くんです
行かないと一生笑いものです 魔法を使えない魔女なんて聞いた
ことないですよ？

それに私半分魔女つまり人間と魔法使いのハーフなんです
半分魔女は魔界では普通の魔女とは扱いが違うんです

「汚れる」とか「魔界の恥さらし」とかいろいろ言われるんです
私のパパが魔界の一番偉い人（南の守護者と言つ役職です）だった
からそこまで言われなくてもパパがママに気を使って人間界に住ん
でるの・・・

以上説明終わり

ポン

イタッ

美沙紀が手紙を投げてきた

（今日、クレープ食べに行こ）

美沙紀は甘いものには目がないから・・・

（ゴメン！今日は無理！）

私は手紙を投げ返した

それを読んだ美沙紀はがっかりして

「先生、クレープ食べたいんで帰ります」

「東條！それは放課後に行きなさい」

「いやだじゃー！」

「私も行く」

次々とクラスの女子達が移動していきました

「お・おい・み・みんな？」

あーあ美沙紀わキれるところだから

あーあ先生が飛び降り自殺図ってる

「先生 飛び降り辞めてください」

「く・桑原・・・お前だけだ・・・先生の気持ち分かるのは」

「僕たちには先生が必要ですよ」キラーン

さっすがは桑原

桑原でかしたぞー

「（笑）みんな帰ったから帰ろうか？」

う・うん

やっぱりカツコイイ さすがはマイダーリン

テクテクテクテク

く・桑原は昨日テレビ見た？

「見てない。昨日塾だったから」

あ・あ・そう

「真帆は昨日何してた？」

魔法の勉強してた

「・・・こんなところで魔女ってばらしてんじゃねーよ」

あ・そうでした・・・

桑原は私が魔女と言うことを知っている

・・・あれ・・・ここって・・・

「公園！一緒にクレープ食べようぜ？」

うん

私は話すのに夢中で公園に着いたのを忘れてた

ここは別名ラブラブ公園

ってことは・・・

第四章 友情破滅

・・・

「きつ気にするなよ？」

うん

私は弱弱しく返事をした
もう、いつものように美沙紀とは遊べないのかな？
怒ってるかな？
泣いてるのかな？
そんな事を考えてると心配になってきた

14

ゴメン桑原！美沙紀のことが心配だから家に寄ってくねー！ばいばい！

「おー。気をつけるよ」

私は全力疾走で美沙紀の家に向かった

ピンポン ピンポン

「はい？」

私だけど・・・

「・・・あなたの顔なんて見たくない」ガチャ

・・・私の中で罪悪感と告白されたうれしさが複雑に絡み合っている
どうしよう

次の日

「おはよう真帆」

おはよう・・・

「元気がないぞ？」

そりゃね？

「・・・昨日の事は気にするな」

うん

少し楽になった気がした

みんなおはよう！

「……」

あれ？

「いい気なもんだね。人の彼氏奪っといてさ！」

えっ？？？

「うええええええーん」

「美沙紀がかわいそうじゃん」

「あやまれよ」

「……何言ってるの？」

「えっ？」

「俺は美沙紀の彼氏じゃないぞ」

「……」

「それに告ったのおれだし」

ガタッ

あっ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9660g/>

story

2010年11月23日06時05分発行